

16. 知的免疫ノススメ

医事万華鏡

3月20日現在、世界中で新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が拡大し、多数の死亡者も出る等、わが国を含めた各国政府がその鎮座に向けた対応に追われています。

では実際に、どのような対策によって鎮圧ができるのかと言え、寧ろ人々をウイルスに感染させ、症状を軽度抑え込む中で感染者の体内に「免疫」を構築させる(集団免疫)ことで次のウイルスの流行に備えるという対策や、ウイルスに感染して体内に免疫が構築された方から血清を採取し、これを基に作製した予防ワクチンを集団接種させることで事後の集団感染を防ぐといった対策、などが挙げられます。

おもえば、我々人類は有史以来、様々なウイルスや細菌によってその存在を脅かされる一方、その都度ウイルスや細菌に対処しうる免疫を獲得することで生き延びてきました。現在、各国の機関、医学関係者が全力で対応策を講じており、いずれは何らかの形で免疫を獲得し、今回のウイルス禍も克服できるものと確信しています。

ただ、今回の事態については、ウイルスそのものもたらず問題だけでなく、それに付随した別の問題が生じていることも見逃せません。デマや流言飛語による社会の混乱

がまさにそれです。「トイレットペーパーが輸入されなくなる」といったデマによって生じたトイレットペーパー不足、エビデンスも無くCOVID-19対策に有効などと触れ込む薬や健康法の拡散、果ては一部メディアによる「政府や感染症研究所が感染情報を操作、隠蔽している」といった報道によって醸成された不信感など、枚挙に暇がありません。

もちろん、このようなデマや流言飛語による社会不安というものは、これまでもしばしばありました。ただしそれは、一部の人材・集団が情報を独占し、我々一般大衆はそれ専ら受け取るのみで、また受け取った情報についてもこれを検証する術を持っていないという「情報のアンシャンレジーム」があつたればこそでした。しかし今や高等教育も一般化し、インターネットの登場によって情報の独占は崩れ、我々は以前とは比べ物にならないほどの大量の情報にアクセスすることが可能となりました。であればこそ我々は、突発的な情報やメディアによる煽情的な報道を目にした際、その真偽を、科学的な見地と様々な情報源から多角的に確認することができ、またそのような習慣を身に着けるべきでしょう。

細菌やウイルスに対し、我々は「生体上の免疫」を身に着けることでその危機を乗り越えてきました。これと同じように我々には今や、デマや流言による社会不安に打ち勝つために、常に情報を検証するという姿勢、いわば「知的な免疫」を身に着けることこそが、求められているのかもしれない。

(JMS主幹・野村元久)

